

# セイコーホールディングスグループのCSR

セイコーホールディングスグループのCSRは、基本理念である「社会に信頼される会社であること」の実践を通じて、

持続可能な社会の実現に貢献することと考えています。

わたしたちは、この実現に向けて、以下の取り組みを推進していきます。

1

革新的な技術、質の高い商品・サービスの提供を通じて、より良い社会づくりに貢献します。

2

ステークホルダーの期待・要請を踏まえて、事業活動が社会に与える影響に責任をもって対処します。

3

法令および国際的な規範を遵守し、ステークホルダーとの対話を基盤に透明性・公正性の高い企業経営を推進します。



## コーポレートガバナンス

セイコーホールディングス(株)は、

「社会に信頼される会社であること」

を基本理念におき、法令の遵守、経営の

透明性、公正性の確保、社会倫理の尊重を

重要な経営課題と位置づけ、その実現に向けてコーポ

レートガバナンス体制の強化推進に取り組み、グループ

の持続的な成長と企業価値向上を図っていきます。



### コーポレートガバナンス体制の強化

2015年6月に適用開始となったコーポレートガバナンス・コードへの対応を軸に、当社のコーポレートガバナンス体制の強化に取り組むとともに、その具体的な指針として、新たに「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を制定しました。

詳細は「コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方」をご覧ください。

URL <http://www.seiko.co.jp/ir/management/governance.html>

## コーポレートガバナンス



### コーポレートガバナンス・コードへの対応

2015年12月にコーポレート・ガバナンス報告書において、コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示、および、未実施の原則については、実施しない理由の開示を行いました。その後、コーポレートガバナンス体制の整備に取り組み、2016年8月にすべての原則が実施済みとなりました。その主な内容は次の通りです。

#### 1. コーポレートガバナンス委員会の設置

2016年4月、役員候補者の指名および役員報酬に係る決定プロセスの客観性と透明性を確保するため、取締役会の諮問機関として、社外役員が構成員の過半数を占めるコーポレートガバナンス委員会を設置しました。

2016年6月開催の定時株主総会で決議された役員候補者の指名および取締役報酬制度の内容は、本委員会の審議を経て上程されました。

#### 2. 取締役に対する業績連動報酬制度の導入

業績および株式価値との連動性をより明確にし、当社の持続的な成長と企業価値の向上に貢献する意識を高めるため、新たに業務執行取締役を対象とした、業績連動賞与制度および業績連動型株式報酬制度を導入しました。

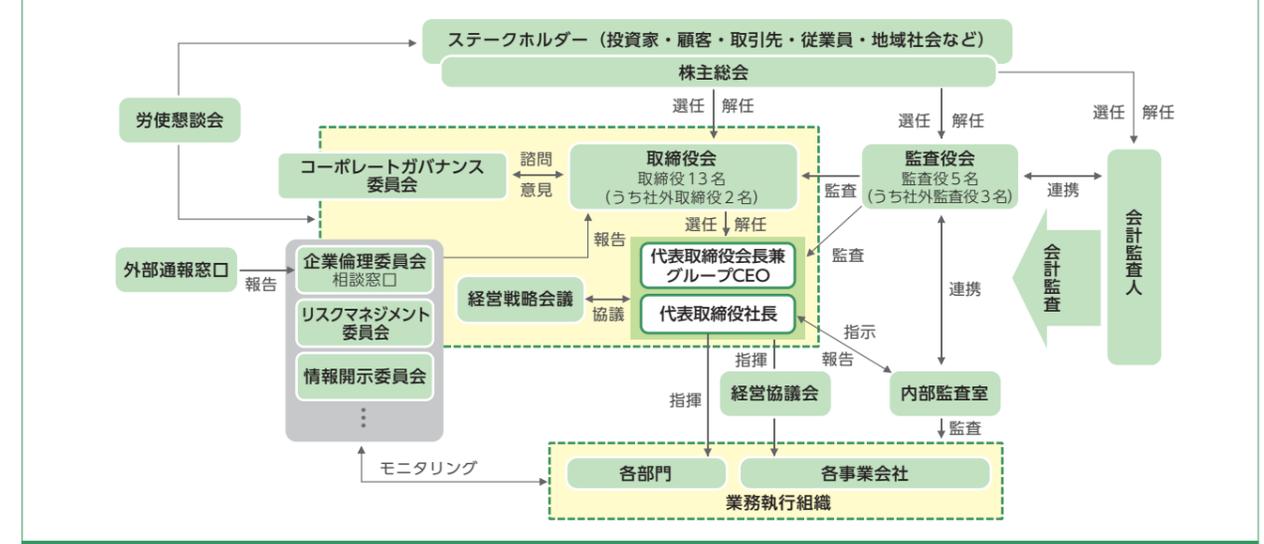
#### 3. 取締役会の実効性についての分析・評価の実施

コーポレートガバナンス体制の強化推進の一環として、取締役会の実効性に関する評価を実施し、結果の概要を開示しました。

詳細は「取締役会の実効性に関する評価結果の概要について」をご覧ください。

URL [http://www.seiko.co.jp/ir/management/pdf/governance\\_01.pdf](http://www.seiko.co.jp/ir/management/pdf/governance_01.pdf)

### コーポレートガバナンスの仕組み



### BCP(事業継続計画)を視野に入れた取り組み

セイコーホールディングス(株)は、BCP(事業継続計画)の観点から大規模災害発生への対応に努めています。

セイコーホールディングス(株)の新社屋ビルは、災害時には、2系統ある電源がともに停止しても、ビルの非常用自家発電で72時間の電源供給が可能です。新耐震基準の約1.25倍の耐震性能を持ち、被災状況を正確に把握できるヘルスマonitoringシステムも備えています。また、1階のピロティ部分は災害時の帰宅困難者一時待機場所として、

一般開放に指定されています。

ハード面での充実に加え、大規模災害の発生を想定した、災害対策本部の対応をシミュレーションする訓練も、想定状況を変えながら毎年継続して行っています。



セイコーホールディングス(株) 災害対策本部訓練

#### CSR編集方針

● 読みやすくするために文章を簡潔にし、ビジュアルも大きくして内容を把握しやすくしました。

#### [報告対象範囲と期間]

本レポートは、セイコーホールディングス(株)および各事業会社\*における2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)の活動を中心に報告しています。  
\*セイコーウオッチ(株)、セイコーインスツル(株)、セイコープレジジョン(株)、セイコーNPC(株)、セイコーソリューションズ(株)、セイコークロック(株)、(株)和光、セイコータイムシステム(株)の各社です。

#### [参照ガイドライン]

GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン第4版(G4)」、環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、「環境会計ガイドライン2005年版」、日本経団連「企業行動憲章」

#### [ウェブサイトとの連携]

本レポートではセイコーホールディングス(株)および各事業会社のCSR活動のエッセンスをお伝えし、ウェブサイトにより詳細な情報を掲載しています。内容は随時改訂されますので、最新情報は下記ウェブサイトをご覧ください。

URL <http://www.seiko.co.jp/csr/>

# 社会との共生を目指して

セイコーホールディングスグループでは、地域・社会の繁栄、地域・社会との共存を目的に、さまざまな活動に取り組んでいます。

## スポーツ協賛活動

セイコーホールディングスグループ各社は、スポーツを通じた子どもや若者の育成に貢献しています。

### ●スポーツひのまるキッズ柔道親子合宿

この柔道親子合宿は、被災地復興を支援し、親子の絆を強める活動として、毎年、東北地域の親子を対象に開催されています。2016年は8月に盛岡市で開催され、特別協賛したセイコーは、協力いただいた盛岡中央高校に柔道タイマーを贈呈し、合宿中のイベント賞品として、タイマークロックとデジタルウォッチを提供しました。



スポーツひのまるキッズ柔道親子合宿2016

### ●水泳の日

社会貢献活動の一環として、水に親しむきっかけづくりを目的に制定された「水泳の日」。セイコーは東京辰巳国際水泳場で開催されたイベントに協賛し、水泳競技の結果をウェブサイトにアップするとともに、銀座の和光時計塔やセイコーミュージアムなどを訪問するバスツアーに被災地である東北3県の子どもたちとコーチを招待しました。



「水泳の日」イベントバスツアー（和光時計塔）

## 音楽を通じた取り組み

セイコーホールディングスグループは、音楽を通じた社会支援活動に取り組み、人々との絆を深めています。

### ●“わ”で奏でる東日本応援コンサート

2011年の震災直後から毎年、被災地での復興支援コンサートを継続して行ってきました。さらに被災地の皆さまと支援者が心をつないで絆を深める場を提供したいと考え、2013年からは「わ」で奏でる東日本応援コンサート」として東北3県と東京で継続して開催。2016年9月の開催で通算23回を数え、音楽家の前田憲男さんを中心に被災地へ思いを寄せるアーティストの方々に出演いただいています。



“わ”で奏でる東日本応援コンサート2016 in 久慈

### ●若い世代の演奏家を応援

ポピュラステージ吹奏楽コンクールやポップス&ジャズバンドグランプリ大会への協賛を通じて、音楽を志す子どもたちや若い世代の演奏家を応援しています。



全日本ポップス&ジャズバンド グランプリ大会

## 地域に密着した社会貢献活動

グループ各社の海外現地法人と代理店は、それぞれの地域に密着したチャリティーやボランティア活動に参加することで、地域活性化への貢献に努めています。

### ●障がい者慈善事業を支援

イギリスでは、障がいを持つ子どもと大人のための慈善事業 Thames Valley Adventure Playground に1,000ポンドを寄付するとともに、Melody in Motion クロックを贈呈しました。寄付金は施設内の遊具などに役立てられています。



寄付金の贈呈

寄付金で購入された施設内の遊具

### ●元受刑者の社会復帰をサポートするスポーツイベント

シンガポールのチャンギ刑務所内で毎年開催される「Yellow Ribbon Prison Run」に2011年からオフィシャルタイマーとして協賛しています。元受刑者の社会復帰プログラムのサポートを目的としたこのスポーツイベントには、賛同する一般ランナー約4,000人が参加しました。



Yellow Ribbon Prison Run 2015

## 「学び」の機会と場を提供する活動

セイコーホールディングスグループは、時計に関する知識や異文化交流において、「学び」の機会と場を提供する活動に取り組み、次世代育成に貢献しています。

### ●おしごと年鑑2016

小学校高学年を対象とした、将来の職業を考える授業で使えるキャリア教育教材「おしごと年鑑2016」に協賛し、時計の仕組みと歴史をわかりやすく紹介しました。日本全国の小学校20,350校と現役教師5,000名に寄贈されています。



おしごと年鑑2016(朝日新聞社刊)

### ●日本語弁論大会

ロシアやCIS諸国で日本語を履修する学生が参加する「モスクワ国際学生日本語弁論大会」に協賛しました。大会を目標に日本語技能を向上させ、優秀な弁論を聞いて学習意欲を高めるとともに、各地の学習者と交流する貴重な機会となっています。



第28回モスクワ国際学生日本語弁論大会

# ダイバーシティ

社員一人ひとりが安心して働ける職場環境を実現することで、  
社会的な責任を果たすと同時に、企業業績の持続的な向上を目指します。

## 女性活躍推進

第6次中期経営計画において、多様な人財の育成、女性活躍推進へのさらなる取り組みを掲げ、2019年3月31日までにグループ女性管理職比率12%を目標とする行動計画を策定しました。

2014年度からグループ横断的な組織として、各社の経営層から構成される「女性活躍推進委員会」と、各社の人事担当と女性社員を中心として構成される「女性活躍推進プロジェクト」が連動しながら、各種講演会・研修の開催や、グループ向け専用サイト等からの情報発信など、女性活躍に対するさらなる意識改革・広報活動を推進しています。



イントラネットで、女性活躍推進の目的や取り組み状況などの情報を発信



## グローバル人財育成／コア人財育成

セイコーホールディングスグループは、若手社員を中心としたグローバル人財の育成を進めています。

2015年度の新たな取り組みでは、新入社員フォローアップ研修の一環として、英語でのコミュニケーションに必要な「マインド」を身に付けるグローバルマインドセット研修(短期集中型英会話研修)を行いました。

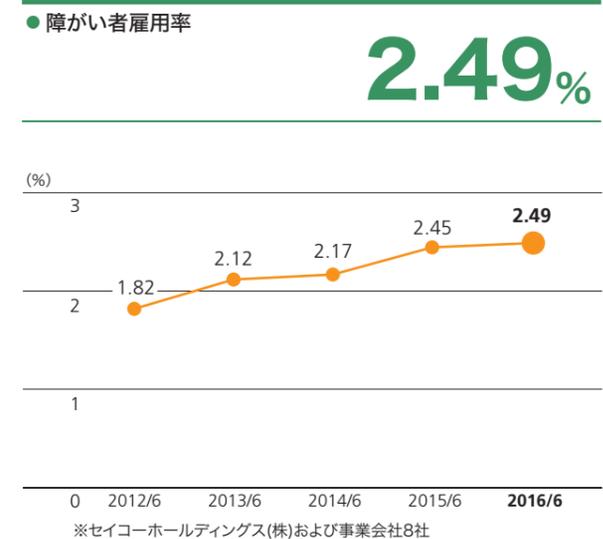
また、国内でグローバルビジネスの基礎知識を学んだ後、3か月の海外研修を通じて実践的なスキルを習得する「Global Training Program」、外部ビジネススクールへの派遣も継続して行っています。



グローバルマインドセット研修

## 障がい者雇用

セイコーホールディングスグループは、障がい者雇用を積極的に進めており、グループ全体で、法定雇用率を上回る障がい者の方々を雇用しています。



# 環境保全の課題解決に向けて

セイコーホールディングスグループは、地球環境を守ることが人類共通の最重要課題であることを認識し、  
良き企業市民として環境の保全に配慮して行動しています。

## 環境推進体制

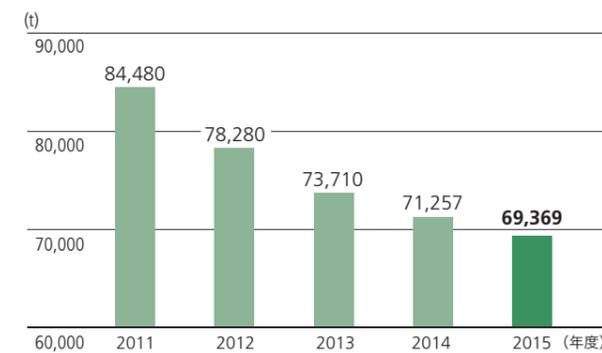
グループ各社の環境担当者を一堂に集めた「環境連絡会」、製造各社が環境関連の最新情報を共有する「製造分科会」を定期的に開催しています。また、「環境セミナー」の開催、グループイントラネットの「環境トピックス」で、社員への啓発に努めています。

## 地球温暖化防止／省エネルギーへの取り組み

セイコーホールディングスグループは、環境会計を導入し、商品開発・製造・販売などさまざまなプロセスで、地球温暖化ガスの低減に取り組んでいます。また、エアコン温度管理、LED照明の導入、複合機等の台数削減や機種選定見直しなどで、消費電力の削減にも努めています。

●CO<sub>2</sub>排出量

**69,369t**



## 環境に配慮した商品

セイコーホールディングスグループ各社では、環境に配慮した数多くの商品を市場に送り出しています。

セイコーウォッチ(株)が発売した世界初のGPSソーラーウォッチ「セイコー アストロン」は、独自技術によりGPSのシグナル受信時の消費電流を低減化することで、太陽光のみで駆動する環境に優しいウォッチです。

セイコーインスツル(株)では、2001年に「SIIグリーン商品ラベル制度」を、2006年からは「SIIハイグレードグリーン商品ラベル制度」を導入し、環境に配慮した製品、環境に貢献できる製品を数多く創出してきました。2015年度のグリーン商品売上比率は97.8%にも及びます。



GPSソーラーウォッチ  
セイコー アストロン



SIIハイグレード商品  
チップキャパシタ

## 生物多様性保全

セイコーインスツル(株)では、「SII生物多様性土地利用ガイドライン」を作成し、SIIグループ全体で生物多様性の保全に努めています。

### ●千葉県の絶滅危惧種「ヒメコマツ」を植栽

セイコーインスツル(株)では、千葉県が展開する「ヒメコマツ系統保存サポーター」に登録し、絶滅危惧種である「ヒメコマツ」の植栽を行い、遺伝系統の保存に協力しています。



セイコーインスツル(株)幕張事業所で育てているヒメコマツの苗木

### ●事業所内で「自然観察会」を開催

盛岡セイコー工業(株)では、生物多様性の観点からみた土地利用状況の評価と生き物調査を実施しています。2015年度は、敷地内で「自然観察会」を開催し、樹林地に生息するさまざまな生き物の存在と習性や生態について学びました。



自然観察会